**大古墳の造営**

博物館のゾーン 2の中心となる展示は、近隣の堺市にある仁徳天皇陵の詳細な模型だ。詳細な模型は日本中の古墳発掘から集めたデータに基づくもので、どのようにして古墳が作られたのか、その築造が地域の生活にどのような影響を与えたのかを見せてくれる。

 聖なる場所と見なされているため古墳はいまだ発掘されていないが、5 世紀に作られたと考えられており第16代天皇の仁徳天皇（257 年 – 399 年と言われている）が眠る場所であると言われている。前方後円墳の総面積は 32.3 ヘクタールあり、日本最大のみならず世界でも最大級の古代墳墓だ。当時の技術的状態から、古墳の完成には毎日休むことなく 2,000 人が作業して 15 年以上かかっただろうと推測する専門家もいる。

 模型は実際の古墳の 1/150 の大きさで、本物の建造物と同じ複数の段とこれをとり囲む 3 重の堀が見える。埴輪として知られる素焼きの焼き物は古墳の各段に並べられ、頂上と側部の平らな部分にある儀式を行う場所にも並べられている。古墳本体を囲む陪塚という小さなサイズの古墳が完成の度合いを分けて作られており、築造段階がより理解しやすくなっている。

 約 3,000 の小さな人形が模型の風景中にいて、それぞれが個性的だ。古墳築造の間にその周辺で生活し働いていたコミュニティ内の、日常生活のいくつかのシーンを描写している。たとえば焼き物職人が土窯の中で埴輪を焼いていたり、鍛冶屋が鉄の形を整えていたり、貴族が鷹狩りをしている様子が見られる。